



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

6月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

あれ？何だろう

副園長 本橋房子

雨続きの一週間が過ぎ、久しぶりに園庭に出てみると、アンズやビワの実がおいしそうに色付き、春先に池でかえったオタマジャクシには足が生え始めました。さくらだこども園では、たくさんの自然に触れながら子どもたちが生活しています。

子どもたちは虫探しが大好きです。初めはダンゴムシを見付けると、「先生、捕まえて」と言っていた子が、近くで様子を見たり手のひらに載せてみたりしているうちに自分でも捕まえてみたいと思ったようです。しゃがみこんでダンゴムシを見つめ、そっと手を伸ばして捕まえていました。「自分で捕まえたのね。すごいね。」と声を掛けると、顔を上げ、とても嬉しそうな顔でダンゴムシを見せてくれました。きっとダンゴムシに触れているうちにその動きにおもしろさを感じ、自分でも捕まえてみたいと心が動いたのでしょう。自分で捕まえられたことが自信になったと思います。また、捕まえて大切にしていた様子から、その子にとって身近な存在になったことが感じられました。

園庭のアンズの実がいくつも地面に落ちていた日のこと、オレンジ色の実を拾い集めていた年長児たちは、たくさんの実の中に形の違う実があることに気付きました。それを不思議に思った子どもたちが「中身を見てみたい！」と言ったことを受け止めた保育者が、自分たちで実を割れるようにしました。すると、「種の形が違う」「種の数も違う」「匂いも違うよ」と子どもたちはそれぞれに自分が気付いたことを言い始めました。保育者は、子どもたちが見て、触れて、匂いを嗅いで、様々な感覚を使いながら発見をおもしろがる姿に寄り添い、共感し、認める言葉を掛けていました。子どもたちがアンズと違うと気付いたその実は、近くのビワの木から落ちたものでした。自分で実際に確かめ、知ったことは、簡単に「それはビワだよ」と教えられるよりもしっかりと心に残ります。

幼児期、自然の不思議さや美しさに触れて心を動かす体験は、好奇心や探究心を育みます。この体験が小学校以降の学びを深める基盤となります。また、実感を伴って命の大切さに触れることは、生きることの素晴らしさを知ることにもつながると言われます。自然豊かなさくらだこども園ですが、自然に触れれば自ずと豊かな心が育つということではありません。そこでの保育者の役割は大きく、子どもたちが興味をもてるように環境を整えたり、言葉を掛けたり、幼児の心の動きや言葉を受け止め、共感したり認めたりすることで、子どもたちの体験が意義あるものになります。これからも、子どもたちがゆったりと自然と関わる時間を大切にしていきたいと思います。保護者の方も、お子さんの様々なつぶやきに耳を傾け、ぜひお子さんとのやりとりを楽しんでみてください。

— 今月の指導のめあて —

- < 3歳児 >
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・園で必要な着替えや所持品の始末の仕方を知り、自分でする。
 - ・梅雨時の雨の様子や、育てている植物や野菜に興味をもち、見たり触れたりして楽しむ。
- < 4歳児 >
 - ・自分の好きな遊びをする中で、自分なりに動きや言葉で思いを表そうとする。
 - ・保育者や友達に親しみや関心をもって関わり、同じ場で遊ぶことを楽しむ。
 - ・色水や水を使った砂遊びなどの様々な水遊びをする中で、水に触れる心地よさや面白さを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・自分の思いやイメージをもち、考えたことを試したり、工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
 - ・友達に自分の思いやイメージを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・身近な生き物や野菜の生長などに興味や関心をもち、親しみをもって世話をしたり発見を楽しんだりする。

『衣替えの季節です』

6月1日は、衣替えです。実際は、5月から暑くなっていますので、すでに夏の対応をしている方が多いですが、6月からは、園帽とズボンのみの着用になります。ズボンの下に長いスパッツなどをはいているお子さんがいますが、これから、水遊びの機会も増えますので、半袖、短い靴下にするようにしましょう。

